

キリストの光のキリスト

復活節第5主日

5月6日

(ヨハネ13・31—33a、34—35)

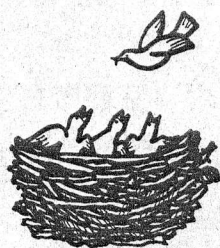
わたしが愛したように

二年前に知り合った方から古い十字架を譲り受けた。一昨年の七月七日。検証はされていないが、言い伝えではアヘン戦争時代に英国から中国に持ち込まれたものと言われている。その知人の知人が香港で手に入れたもの。粗末な板切れにくぎ付けにされたブロンズのキリスト像は精巧に作られたもので、見る者に感動さえ与える。像の大きさは二〇センチ強。よく見ると右腕はひじのところが折られ、修理した跡がある。心臓のところもペンチのようなもので傷つけられている。ひざから下はゆがめられ、像の全体がねじれている。おそらく傷つけられた後、どこかに捨てられていたものを誰かが拾い、板切れで丁寧に十字架を作り、それにくぎ付けにしたのであろう。十字架に付けられていたといわれる「罪

状書き」も失われている。打ち付けたくぎはさびていた。

この十字架は「さらなる苦しみの十字架」と呼ばれるようになった。

この十字架を指物師の方に頼んで、原型をとどめたまま典礼儀式の時に使う行列用の十字架に作り替えてもらった。



ある機会にこの十字架は二度倒され、二回目に倒れた時、十字架が折れ、像が木から外れた。ことしの聖金曜日、新しい十字架が作られ、このキリスト像は受難の典礼の中で三度くぎ付けにされた。

イエスは言う。「あなたがたに新しい掟(おきて)を与える。

互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」

べつに掟として与えられなくとも、誰でも互いに愛し合うことを求めている。しかもこの望みは人の最も強いもの。誰でも愛し、愛されたいと望んでいる。人はそのために生きている。人にとって愛し、愛されることが求め、努力するが、決して満足することはできない。掟として与えられても自分の無力さを知るだけである。

しかしイエスはこの掟を「新しい」ものとして与えた。新しいとはどこにあるのか。

イエスは「わたしがあなたがたを愛したように」と言う。イエスの愛は十字架に表されている。この掟は指示、命令ではなく愛そのものである。この掟は、すでに愛し合おうとしているわたしたちへの励ましであり希望である。イエスがこのように愛

してくださった。自分のすべてを与えるほどに。十字架にくぎ付けにされて民衆のさらしものになるほどに。こうしてイエスは神の愛を人々にさらした。

十字架を見る者がこの愛に気づく時、互いに愛し合おうとしているわたしたちに神からの力が与えられる。自己中心的な愛が浄化され、他に向かう愛に変えられていく。

くぎを打つ音が、こころの奥底で響く。

(山元真二福岡教区司祭)

この週の福音

7日・月	ヨハネ	14・21—26
8日・火	ヨハネ	14・27—31a
9日・水	ヨハネ	15・1—8
10日・木	ヨハネ	15・9—11
11日・金	ヨハネ	15・12—17
12日・土	ヨハネ	15・18—21